

実証事業実施における深谷市の状況

深谷市教育委員会学校教育課
課長補佐兼指導主事 鳥塚 源太郎

【本日の内容】

- I 部活動に関する深谷市の概要
- II これまでの経緯
- III 検討委員会について
- IV 地域クラブ活動の実施について
- V 現状の成果と課題



Ⅱ これまでの経緯（令和4年度）

令和4年 8月上旬 各中学校長とのヒアリング

8月22日 中学校長との部活動地域移行に向けた意見交換・協議（臨時校長会）

➡ 国や県の動向の情報提供

部活動実施の課題・地域移行した場合の懸念事項等を協議

10月14日 市のスポーツ団体及び文化団体の代表者との意見交換会

➡ 国や県の動向の情報提供

地域移行を目指す場合の課題について協議

11月21日 中学校長との部活動地域移行に向けた意見交換・協議

Ⅱ これまでの経緯（令和4年度～令和5年度）

令和5年 2月 「地域スポーツクラブ活動体制整備事業における実証事業」に応募

応募の背景

- ・少子化に伴い、教員数が減少し、今までどおりの部活動数の維持が困難
- ・スポーツや文化芸術の活動機会を確保するために、地域が受け皿となり、学校と地域とで子供たちを育てるという観点に立脚した取組が必要

5月 実証自治体に決定

7月～10月 深谷市地域クラブ活動検討委員会（第1回～第3回）

11月11日 深谷市地域クラブ活動実証事業開始（2月10日まで）

随時、教育委員会だよりで保護者や地域に情報提供

Ⅲ 深谷市地域クラブ活動検討委員会について

◆検討委員会メンバー

- ・教育長 ・教育部長 ・スポーツ協会会長 ・スポーツ少年団本部長
- ・スポーツ推進委員会会長 ・総合型地域スポーツクラブ代表
- ・レクリエーション協会会長 ・文化団体連合会会長
- ・中学校長会会長 ・小学校長会会長 ・中学校体育連盟会長 ・中学校体育連盟理事長
- ・顧問代表(運動部) ・顧問代表(文化部)

◆事務局

- ・学校教育課 ・生涯学習スポーツ振興課

Ⅲ 深谷市地域クラブ活動検討委員会について

◆ 検討事項

	開催日	実施内容
第1回	7月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の委嘱 ・地域クラブ活動の行い方についての検討 ・実証団体及び実証部の募集について
第2回	8月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・地域クラブ活動体制整備事業の進捗状況について ・実証事業における検証事項の検討
第3回	10月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターの委嘱 ・地域クラブ活動の実施方法について ・令和6年度地域クラブ活動実施方法についての検討
第4回	2月上旬 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の事業報告(成果と課題について) ・令和6年度地域クラブ活動実施方法についての検討

コーディネーター: 元校長(地域のスポーツ団体にも精通)

- 【主な仕事】
- ・活動を巡回し、適切な指導がされているかの確認
 - ・指導者や生徒からの相談対応
 - ・活動する中で現れる課題の把握や改善策の提案
 - ・活動を通しての成果の把握
 - ・教育委員会との連絡・報告

IV 地域クラブ活動の実施について

◆実施に向けた主なスケジュール

	事務局・検討委員会	学校へ	生徒・保護者へ	指導者へ
R5.7	○第1回検討委員会 ○各団体へ募集要項の送付	○代表校長へ事業概要説明		○各団体の代表へ事業概要説明 →協力可能団体募集
R5.8	○第2回検討委員会	○各中学校長へ事業説明 →顧問へ説明 ○参加希望部調査		
R5.9	○実証部・実証団体の決定	【実証部の決定】	【実証部の決定】	【実証団体の決定】
R5.10	○保護者への説明会の実施 ○指導者の委嘱 ○参加者の把握 ○第3回検討委員会		○保護者向け説明会 →参加者募集	○指導者向け説明
R5.11	○保険加入・参加費徴収 ○実証事業開始(11/11～) ※11/11～2/10予定	○実証事業開始(11/11～)	○実証事業開始(11/11～)	○実証事業開始(11/11～)

V 現状の成果と課題

◆各活動の概要

種目	卓球	剣道	ラグビー
協力団体	(一社)深谷スポーツ文化倶楽部 シュエット	深西剣友会	(一社)深谷スポーツクラブ
実証部	岡部中学校 男女卓球部	川本中学校 剣道部	南中学校 ラグビー部
参加者	34名	6名	13名
主な活動日	土曜日 午前	土曜日 午前	土曜日 午後
主な活動場所	岡部中学校 体育館	川本中学校 体育館	南中学校 校庭 櫛挽ヶ原ラグビー場 (団体保有施設)



V 現状の成果と課題（○成果 ▲課題）

- 今年度は、指導経験が長い指導者が指導に当たっているため、より専門的な知識や技能を学べる機会になっている。
- コーディネーターが可能な限り、活動を巡回しているため、指導者や生徒の支援ができています。
- 生徒からも、肯定的な声が上がっている。
例) 自分達の姿を撮影することで、平日の活動以上に普段意識していないところを意識できるようになった。
アドバイスをもらえた。新しいプレーができるようになった。今後、自分のプレーに活かしたいと思った。
- 連絡アプリを活用することで、必要以上に個人情報のやりとりをせずに、指導者・保護者・事務局の連絡体制が取れている。

- ▲ 本活動を今後、広げていくことを考えると、教育委員会が運営団体になって実施していくことは難しい。
- ▲ 国の補助金によって、低廉な参加費で活動が可能となっているが、補助金がなくなった場合の予算確保について、今後、大きな課題となる。(市や保護者の負担が増大)

ご清聴ありがとうございました